

楽しく体験!陸・海・空のテクノロジーワールド

カワサキワールド

Kawasaki GoodTimes World

船舶、鉄道車両、航空機、モーターサイクル…神戸に生まれ、日本に、そして世界に最新のテクノロジーを送り出す川崎重工グループ。陸・海・空の各分野で活躍する、そのテクノロジーの歴史、現在、そして未来を、ぜひ、カワサキワールドで感じてみてください。

みて、ふれて、体感しよう。

館内では、0系新幹線の先頭車両やヘリコプターなどの実物の展示を行っています。0系新幹線では、実際に運転席や客室に入ることができますので、ぜひお越しいただき、製品を肌で感じてください。



館内展示の0系新幹線

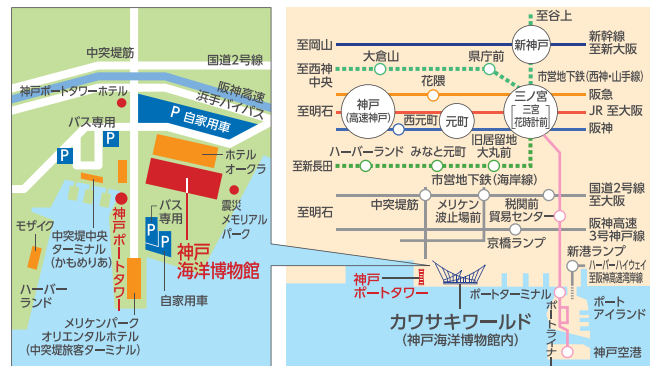


所在地 〒650-0042 兵庫県神戸市中央区波止場町2番2号(神戸海洋博物館内)
開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は、翌日に休館) 年末年始(12月29日から1月3日)
お問い合わせ TEL:078-327-5401 FAX:078-327-5402
<http://www.khi.co.jp/kawasakeworld/>

■神戸海洋博物館入館料	大人	600円	小人(小中学生)	250円
-------------	----	------	----------	------

※入館料には、各種割引があります。
※カワサキワールドの入場料は、神戸海洋博物館の入館料に含まれています。

交通案内



- 飛行機で
「神戸空港」からタクシーで約20分
- 新幹線で
「新神戸駅」からタクシーで約15分
- 電車で
市営地下鉄海岸線「みなと元町駅」から徒歩約10分
JR・阪神「元町駅」から徒歩約15分
神戸高速(阪急・山陽)「花隈駅」から徒歩約15分

- シティループで
「地下鉄三宮駅前(南行)」乗車約15分
「中突堤(ポートタワー前)」下車徒歩1分
- 車・タクシーで
JR「三ノ宮駅」、阪神・阪急「神戸三宮駅」から約10分
JR・阪神「元町駅」から約5分
阪神高速道路「京橋ランプ」から約5分
ハーバーハイウェイ「新港ランプ」から約5分
※周辺には駐車場(有料)があります。

■南三陸町で実験工作教室を開催

2013年11月、当社は宮城県南三陸町立志津川小学校の6年生児童を対象に実験工作教室を開催し、油圧機器の仕組みを活かしたプログラム「マイクレーン車をつくらう」を実施しました。当社では次世代育成支援や被災地域の復興支援といった社会貢献活動の一環として、2012年より本教室を開催しています。今後とも当社は、地域社会と連携し、事業を通じた社会貢献に取り組んでいきます。



マイクレーン車製作の様子

Business Report

第191期 通期

平成25年4月1日 → 平成26年3月31日

[Top message]

株主の皆様へ

[Product introduction]

「医」の現場にも「カワサキ」を
人に優しいロボット技術

[Works exploration]

工場探訪 vol.5 兵庫工場
現場のパワーに触れる旅

[Factory tour]

工場見学会のご案内(坂出工場)

川崎重工業株式会社
証券コード:7012



Kawasaki
Powering your potential

✂ 切り取ってご利用ください

カワサキワールド

Kawasaki GoodTimes World

株主様ご招待券(3名様無料)
2015年6月30日まで有効

川崎重工業株式会社
TEL:078-371-9533(総務部株式担当)



この報告書は環境に配慮し、植物油インキを使用しています。



株主の皆様へ



川崎重工グループは、世界経済全体が総じて緩やかな回復をみせるなか、好調な業績を確保しました。そのような経営環境における当社グループの現状と今後の展望について、村山社長に聞きました。

なお、第191期の業績の詳細については、13ページ以下に記載のとおりであります。

—現在の経営環境についてどのように考えていますか。

当社グループを取り巻く経営環境は、緩やかな世界経済の成長に円高是正も加わり、総じて良好なものとなっています。特に中長期的に市場拡大が期待される民間航空機分野、先進国・新興国にかかわりなく経済発展に欠かせない鉄道や、産業用分散型発電をはじめとした各種インフラ分野に加え、人件費高騰への対応や労働生産性の向上を目的としたロボット分野などにおいて、当社グループ各事業部門の取り扱う製品に対する需要が、世界経済の成長に伴い確実に伸長しています。

こうした需要に応える製品は、安全性・効率性・快適性を追求した高度なエンジニアリング技術や、無数の部品を摺り合わせる匠の生産技術に加え、巨額の先行投資を必要とする最新鋭の生産設備が求められるため、他社には容易に真似ることのできない当社グループの強みとなっています。本分野にかかわる各事業の業績が堅調なことは、当社グループの将来にとって明るい材料であることに間違いありません。

—「中計2013」初年度を終えての進捗状況と、2014年度（第192期）の取り組みについて聞かせてください。

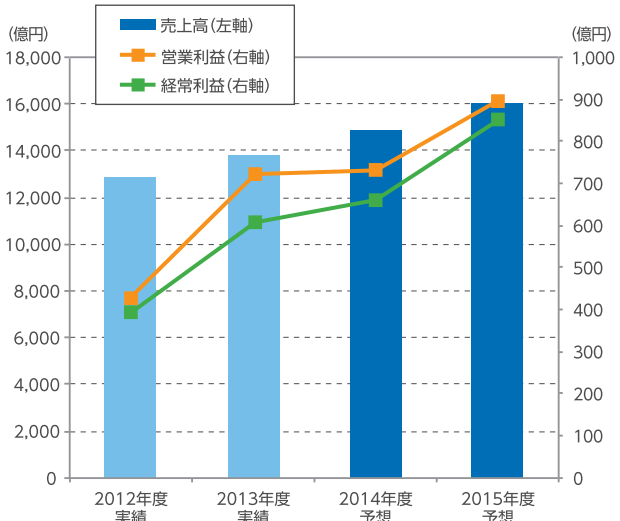
2013年度（第191期）の連結決算実績は、売上高・利益とも昨年度（第190期）の業績をすべて上回る結果となり、当期純利益においてはグループ最高益を更新することができました。特に、航空宇宙事業、ガスタービン・機械事業、モーターサイクル&エンジン事業、精密機械事業の4部門において100億円を超える営業利益を確保できたことは、「中計2013」の目標達成にむけて大きな弾みとなります。

また、昨年度より喫緊の課題として取り組んできた有利子負債対策についても、各部門が積極的にキャッシュ・フロー改善策を推進してきた結果、2013年度期末目標4,500億円台に対し、4,446億円まで削減が進んでおり、「中計2013」最終年度の2015年度期末目標4,000億円台の達成も視野に入ってきました。「中計2013」初年度としては総じて順調なスタートが切れたと考えています。

2014年度の業績見通しは、グループ全体として、売上高・利益とも2013年度の実績を上回る計画としています。近年、当社グループの売上高構成は、輸出を含めた海外比率が6割近くに達しており、海外市場に目をむけた成長戦略が当社グループの成長を考えるうえでますます重要となっていることから、2014年度は、当社グループ各事業部門において描いているグローバル戦略をさらに加速させるなど、中計最終年度の目標〔連結売上高:1兆6000億円、営業利益:900億円（史上最高益更新）、経常利益:850億円



〔連結業績の推移〕



■前提レート
 2014年度:100円/ドル、135円/ユーロ
 2015年度:95円/ドル、120円/ユーロ ※2013年4月25日「中計2013」発表時のレート

	2012年度 実績	2013年度 実績	2014年度 予想	2015年度 予想
ROIC (投下資本利益率)	6.1%	8.1%	8.6%	11%

※ROICについては、20ページ「Point2」をご参照ください。



“企業価値”の向上にむけて “ROIC経営”を再徹底します。

(2期連続最高益更新)、ROIC:11%) 達成にむかってグループ一丸となって邁進する所存です。

なお、当社は、業績に見合った配当を安定的に継続するとともに、中長期的な連結配当性向の基準を30%に置くとの方針のもと、2013年度は1株あたり年間6円(中間0円、期末6円)の増配を決定するとともに、2014年度も1株あたり7円(中間3円、期末4円)への増配を予定しています。

— 2013年度よりBU(ビジネスユニット)管理を推進していますが、どのようなものでしょうか。

当社グループは、昨年6月の新体制発足に際し、“企業価値”の向上を経営方針の中心に位置づけ、“ROIC経営”を

再徹底することを確認いたしました。“企業価値”とは当社グループが将来にわたって生み出す収益の現在価値の総和であり、“ROIC経営”とは企業価値の向上に際して、今後成長が見込める事業分野に人財、設備投資、研究開発などの経営資源を集中させながら、グループ全体として投下資本コストを上回る収益を持続的に確保していく成長戦略のことです。

このような認識のもと、昨年度は全従業員に企業価値の向上にむけた取り組みが理解できるパンフレットを配布するほか、各事業部門のBU(ビジネスユニット)単位での管理体制を構築しました。

BU管理の目的は、各事業セグメントの現状と将来の成長性をBU単位で“見える化”し、ROICに基づく財務的

課題とコア・コンピタンス(競争優位性)を強化するための課題を明らかにすることです。これにより、BU単位での課題の克服に加え、利益目標や成長戦略を踏まえた経営資源配分方針などを議論する体制が整い、さらに、全取締役が所掌以外の事業の理解をいっそう深めることも可能となり、いままで以上に緊張感の高まる経営に結びつくうえに、事業間のシナジー効果なども期待できると考えています。

— 昨年度より社外取締役を導入しましたが、コーポレート・ガバナンスにどのような変化が現れたでしょうか。

昨年度、当社は、経営全般に対する取締役会の監督機能を強化することを目的に、社外取締役(東京証券取引所の定める独立役員に指定)を招聘いたしました。社外取締役には、一般株主の視点に立脚し、主に「経営の健全性・透明性の担保」と「企業価値の持続的な向上」の観点から、当社グループの経営に携わっていただいております。



このたび、村山社長と森田社外取締役との間で対談を行いました。
対談内容を「Kawasaki Report 2014」(7月発行)に掲載いたしますので、ぜひご覧ください。
掲載URL:<http://www.khi.co.jp/ir/library/annual/index.html>
(ホームページトップ>IR情報>IRライブラリ>「Kawasaki Report(和文)・アニュアルレポート(英文)」)

社外取締役の参加によって、当社取締役会は“風通しの良い社風”と相まって、従来以上に“自由闊達”な議論が促進されるとともに、ステークホルダーの代表としての見識の高い、的確なご指摘をいただくことで緊張感を持った運営が執り行われています。

— 最後に、当社のステークホルダーへのかかわり方について聞かせてください。

当社グループのステークホルダーは、株主の皆様をはじめ、お客様、地域社会、従業員、お取引先と多岐にわたります。グループミッションを「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」と掲げる当社グループの『事業』が、『サステナビリティ』や『社会課題を解決する使命』と親和性・同軸性が高いという特長をステークホルダーの皆様にご理解いただき、当社グループの企業活動に共感いただくことが大切であると考えています。

当社グループは、今後も企業価値のさらなる向上を目指し、株主の皆様のご期待に応えてまいりたいと考えておりますので、よりいっそうのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年6月

むらやま しげる
取締役社長 村山 滋

「医」の現場にも「カワサキ」を

人に優しい ロボット技術



「MS005N」(表紙掲載)

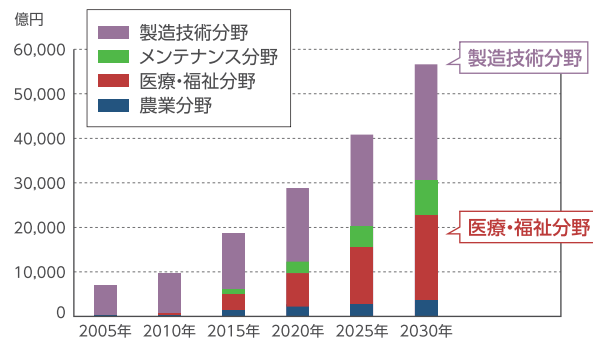
産業の発展とともに、多くの分野でロボットによる作業の自動化に貢献してきた川崎重工は、2013年秋、医薬・医療向けロボットの販売を開始し、同分野への進出を加速させました。今回は、ロボット業界での当社の歴史・実績とともに、今後の成長が見込まれる医薬・医療分野への取り組みをご紹介します。

ロボット技術の適用が期待される医薬・医療分野

多くの製造現場において作業の効率化や高度化が進むなか、生産性の向上、品質の安定を目的に、ロボットによる作業の自動化が進められてきました。今後、医薬・医療分野においても、抗がん剤などの人体への影響が非常に強い高薬理活性医薬品の製造工程などで、作業者に健康被害を及ぼす可能性があることなどから、人の作業をロボットに置き換えたいというニーズが増加すると見込まれています。また、日本を含む先進国では、高齢化社会が進むなかで、医薬品製造だけでなく、介護医療や、人体への負担が少ない治療法へのニーズの高まりが見込まれています。

このように、医薬・医療分野は、ロボットにとって有望な市場となっています。

市場拡大が見込まれるロボット技術の適用分野



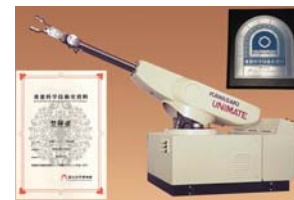
引用元：財団法人機械振興協会経済研究所「RT(ロボットテクノロジー)による産業波及効果と市場分析に関する調査」(2008年)

産業の発展に貢献してきた歴史と実績

当社の産業用ロボット事業は、明石工場で日川崎航空機工業の一事業としてはじまり、米国ユニメーション社との技術提携により、1969年に国産初の産業用ロボット「川崎ユニメート2000型」*1の製造・販売を開始することで本格化しました。その後、産業が急速に発展するなかで、溶接、塗装、ハンドリングなど、ニーズに合わせて製品ラインナップを拡充してきました。特に、半導体製造向けクリーンロボット*2分野では世界シェア40%を誇り、また、自動車製造向け溶接ロボット分野においても高い実績を築くなど、長きにわたり生産現場を支え続けています。

*1 2010年、国立科学博物館の重要科学技術史資料(未来技術遺産)に認定

*2 クリーンルームなどで使用可能な清浄度を実現したロボット



「川崎ユニメート2000型」



半導体向けクリーンロボット「NT420」

医薬・医療にも活かされるカワサキの技術

これまでも当社では、iPS細胞にも適用可能な細胞自動培養装置など、医薬・医療分野においてもロボット技術を応用してきましたが、このたび医薬・医療向けロボット2機種を新発売しました。これらのロボットは、製薬・創薬工程での使用を想定しており、高い衛生レベルを満たすため、業界で初めて、アーム先端部までの配線・配管内蔵を可能としたほか、耐薬液性の高いコーティングを施し、高い洗浄性を実現させました。特に、「MS005N」は業界初のオールステンレス構造に滑らかな鏡面仕上げ処理を施し、他に類のない耐腐食性を確保することに成功しています。今後とも当社は「Simple & Friendly」のコンセプトのもと、人に優しい製品の開発に取り組んでいきます。



「細胞自動培養装置」内部のロボット



医薬・医療向けロボット「MS005N」

Column 新市場創造で「世界トップ・ブランド」を目指します。

当社は1969年に日本で初めて産業用ロボットの製造・販売を開始、パイオニアという立場で自動車・汎用用途に続き、新市場の半導体向けでも競争力のあるロボットを開発し、現在では業界トップ・シェアという位置づけを確保しています。昨年、新興国でのロボット需要が旺盛ですが、特に急拡大している中国市場の需要に応えるため、2015年には中国生産を開始し、より価格競争力のある体制構築を目指しています。

一方で、日本をはじめとする先進国では、高齢化に伴い医療が高度化・多様化するなかで医療用ロボットの活躍に期待が寄せられており、この分野でもトップ・ブランドを目指すべく、シスメックス(株)との共同出資により(株)メディカロイドを設立し、マーケティング活動を開始しました。将来は開発・製造・販売を行い、医療用ロボットのトップ企業に成長させていきます。産業用、医療用ロボットも、私たちが目指すロボットは、“人に任せ、人を支える”ロボットです。これからも、どうぞ私たちの新市場創造への挑戦にご期待ください。



橋本 康彦
執行役員 精密機械カンパニー
ロボットビジネスセンター長

工場探訪

vol. 5
兵庫工場

現場のパワーに触れる旅

1906(明治39)年、川崎造船所(当時)の運河分工場として誕生した兵庫工場は、翌年に初めて電動客車を製造して以来、蒸気機関車から新幹線まで様々な種類の鉄道車両を世に送り続けてきました。その活躍の場は、日本全国の鉄道はもちろん、北米・アジアを中心とする世界にまで及びます。今回は、かつて日本の近代化に大きく寄与し、これからも最先端の高度な技術と品質で新たな未来社会に貢献する同工場を紹介します。



日本の鉄道史とともに歩み、残した足跡は9万両超

川崎重工の車両事業は、1906年に明治政府が鉄道の統一を目指して制定した「鉄道国有法」を受け、川崎造船所の初代社長・松方幸次郎が本事業への進出を決意、神戸市・東尻池の地に鉄道車両工場を建設したことにはじまります。

兵庫工場の特長は、お客様のニーズに応じ様々な種類の鉄道車両を製造できる能力を有する点にあります。時代の流れ・技術の進歩に応じて多様な車両の製造に取り組み、その時々において「わが国初」となる製品を数多く世に送り出しました。新幹線については、日本初となる東海道新幹線から最新の北陸新幹線まで、ほぼすべての種類の製造に携わっています。

このような歩みを経て、当工場の累計製造車両は9万両を超え、いまま多様な車両の製造を手掛けています。



兵庫工場に展示中の「0系新幹線」及びビジネス特急電車「こだま」

兵庫工場を中心に、世界の鉄道輸送に貢献し続ける

現在、当社の車両事業の生産は国内(神戸市)、北米(ニューヨーク州、ネブラスカ州)の3拠点で行っており、なかでも当工場は、次世代の新幹線をはじめとする最新型車両などの開発・製造を担う「マザーファクトリー」として重要な位置にあります。

当社は2020年を見据えた目標として「世界最高水準の技術と品質を強みに、高速鉄道からLRT[®]まで幅広く取り組む世界トップクラスの鉄道車両システムメーカー」となることを掲げています。これまでも日本国内はもとより、北米・アジア向けに地下鉄、近郊電車などのほか、2004年には台湾に新幹線を初めて輸出するなど、世界の鉄道輸送に積極的に貢献しています。

今後とも当社は、高い技術力と信頼性をもとに、環境負荷の少ない交通手段である鉄道車両を国内外に提供していきます。

※ Light Rail Transitの略。次世代型路面電車システム。



世界市場向け新型高速鉄道車両「efSET[®]」

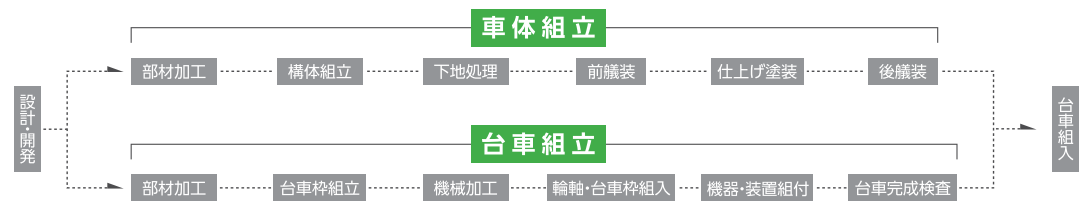
【兵庫工場】

兵庫県神戸市兵庫区和田山通
2丁目1番18号
工場敷地 220千㎡
従業員数 1,351名(2014年3月現在)

- [主営業品目]
■鉄道車両、
その他鉄道関連製品

目指すは世界最高水準。 人々に「安全」を届ける「カワサキ」の技術

兵庫工場では、様々な技術力を駆使して鉄道車両を製造しています。安全で高品質の車両を顧客に提供するため、品質マネジメントを積極的に展開しています。また、製造工程においては溶接作業などに当社製ロボットを導入し、溶接精度の安定を図っているほか、当社独自の生産管理システム「KPS(カワサキ・プロダクション・システム)」を導入し合理的な生産体制を構築するなど、高品質かつ効率的に車両製造を行うよう日々努めています。



車体組立



先頭車両の構体組立

鉄道車両は、車体の強度を担う構体を骨組みとした車体、走行機能を持った台車で構成されています。当工場では車体と台車を各専用ラインで製造しています。構体は材質によって、ステンレス・アルミ・鋼の3種類があり、組立ては、ブロックごとに分けて行います。それぞれのブロックを結合して完成した構体は艤装工場棟へ移し、配管・配線、塗装を行い、扉や棚、座席などの内装品や室内、床下の各種装置を取り付けます。



台車組立



完成直前の台車

車体の組立てと並行して、台車工場棟では台車の組立てを行います。台車は、台車枠を組立てた後、ブレーキ装置、空気ばね、モーターなどの各種装置を取り付け、車輪部と結合させて完成します。台車は動力の伝達や乗り心地、走行安全性などの重要な役割を担っているため、組立て後の寸法確認や荷重負荷試験を入念に行います。完成した台車は艤装工場棟に運び、車体に組入れます。

兵庫工場 （車両カンパニー）

機能・走行試験



雨漏れ試験

鉄道車両の製造が完了すると、寸法検査や電氣的・機械的な検査、雨漏れ試験などを行います。さらに工場内で走行試験を実施し、ドアの開閉、車内放送、空調機などの機能確認、走行・急ブレーキや非常停止まで、実際の営業運転を想定した様々な試験を繰り返し行います。機能・走行試験に合格した車両は出荷となります。

機能・走行試験

出荷



船に積み込む様子

完成した鉄道車両は、以下の3種類の方法で出荷され、各地で活躍しています。

- ① JR線を利用した鉄道輸送で、各鉄道会社の車両基地に搬入
- ② トレーラーに載せて深夜の道路を走り、車両基地へ陸上輸送
- ③ 船に載せて車両基地近くの港まで海上輸送し、そこからトレーラーで車両基地まで運搬



この匠、この技術

車両製造の「最後の砦」として、優れた技能で完成検査に臨む

八木田氏が所属する職場は、当工場では製造するすべての車両で完成検査を担当しています。同氏は主に新幹線の検査業務に携わっており、特に「打検」の技術に優れています。1両あたり数千ものボルトなどをテストハンマーで次々と叩いて、通常では分かりづらい微妙な音や感触の違いから素早く正確に不良箇所を見つけ出す様は、まさに匠の技術といえます。また、同氏は後進育成の場でも活躍し、鉄道車両の品質向上に貢献しています。



八木田 真也

車両カンパニー 品質保証本部
品質保証部 検査課 班長

次世代の鉄道車両用台車「efWING®」

「efWING®」は、世界で初めて一部にCFRP(炭素繊維強化プラスチック)を採用し、大幅な軽量化に成功した新製品です。本製品は、航空宇宙カンパニーや技術開発本部の技術を結集するなど、総合経営の強みを活かしたシナジー効果により完成させたものです。従来の台車に比べ、走行燃費向上によるランニングコスト低減とCO₂排出量削減に貢献するほか、乗り心地や脱線に対する安全性も大幅に向上しました。さらに、感性工学に基づくデザインで、洗練された機能美を持つ本製品は、2013年度グッドデザイン金賞を受賞しました。既に熊本電気鉄道(株)に2台納入し、本年3月から営業運転に投入されています。今後、川崎重工は「efWING®」のいっそうの拡販を目指します。

※「efWING®」:Environmentally friendly Weight-Saving Innovative New Generation truck)の略称



本応募券を切り取り、郵便はがきに貼り付けのうえご応募ください。



[工場] 坂出工場
[所在地] 香川県坂出市
[生産品目] 船舶・海洋機器

坂出工場

応募要項

■対象者

2014年3月31日現在、当社株式1,000株以上をご所有の株主様ご本人(ご同伴者様1名まで可)
※12歳未満の方のご見学には、必ず成人の方が同行してください。

■参加費

無料(但し、集合・解散場所(坂出駅を予定)までの往復交通費は株主様のご負担とさせていただきます。また、昼食のご用意はしておりませんのでご了承ください。)

■締切日 2014年8月22日(金) [必着]

■ご応募前の確認事項

- ご応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。厳正な抽選のうえ、結果はご応募いただいた株主様全員に、2014年10月中旬までに郵送にてお知らせいたします。
- ご応募の際に、記載事項に漏れなどの不備がございます場合、無効とさせていただきますのでご注意ください。
- ご応募により当社が取得する個人情報、本工場見学会を実施するうえで必要な限りにおいてのみ使用いたします。
- ご見学時は1時間程度(予定)の徒歩移動、バスの乗り降り及び階段の昇り降りがございますので、あらかじめご了承ください。
- ご見学時は写真・ビデオ撮影はお断りさせていただいておりますので、あらかじめご了承ください。
- 株主様と、ご記載されたご同伴者様のみ参加できます。なお、当日は別のご同伴者様がお越しいただいても、手続きの関係上、ご見学いただけませんのであらかじめご了承ください。
- 当日は集合・解散場所(坂出駅を予定)の周辺には当社が用意している駐車場がございませんので、公共交通機関でお越しください。また、工場へ直接ご来場いただけませんので、ご注意ください。

お問い合わせ先
(工場見学会専用)
川崎重工(株)株主名簿管理人
三井住友信託銀行(株)証券代行部
☎03-6743-3220
営業時間 9時~17時(土・日・祝日を除く)

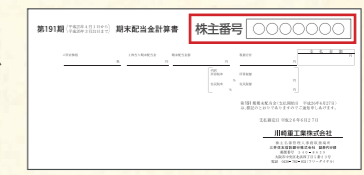
■応募方法

参加を希望される日時を下表の申込番号(①~④)からひとつだけお選びいただき、下記のとおり郵便はがきに、本ページ右上の応募券を貼り付け、必要事項を記入のうえ、ご応募ください。(郵送料につきましては株主様にてご負担くださいますようお願い申し上げます。)

申込番号	日程	時間
①	2014年11月19日(水)	9時より約3時間(予定)
②	2014年11月19日(水)	14時より約3時間(予定)
③	2014年11月20日(木)	9時より約3時間(予定)
④	2014年11月20日(木)	14時より約3時間(予定)

定員は各40名(同伴者を含みます。)

※株主番号掲載箇所
本紙と一緒に同封している「送付票」に株主番号が記載されています。



- 工場見学会
応募券
(坂出工場)
- A 株主番号(9桁)
 - B ご希望の申込番号
 - C 株主様
 - ①お名前(ふりがな)
 - ②郵便番号
 - ③ご住所
 - ④性別
 - ⑤年齢
 - ⑥電話番号
 - D ご同伴者様(1名まで)
株主様の必要記載事項(①~⑥)と同様に記載

裏面



あて名面



今回の工場見学会は 坂出工場です！



川崎重工では、株主の皆様によりいっそう当社への理解を深めていただくことを目的に、2013年の3月から工場見学会を実施しております。このたび、第4回目となる工場見学会は坂出工場で開催いたしますので、本案内をご覧ください。

見学場所 当工場はLNG運搬船・LPG運搬船・バルクキャリアなどの多種多様な大型商船を建造しております。造船工場ならではのダイナミックな製造現場をぜひご覧ください！



建造中のLNG運搬船



船首ブロック



搭載されるLNGタンク

世界経済全体の回復基調のなか、好調な業績を確保

当期における世界経済は、先進国を中心とした緩やかな回復の一方、新興国では、以前ほどの大幅な伸びは認められませんでした。また、国内経済は、各種財政・金融政策による効果の下支え、消費増税前の駆け込み需要などで緩やかに回復しました。

このような経営環境のなか、当社グループは、受注・売上・利益面すべてで前期を上回り、当期純利益は過去最高益となりました。

来期(第192期)につきましては、新興国経済の先行き不透明感が残るものの、全般的に明るさを取り戻しつつあるなか、航空宇宙事業などを中心に売上高の増加を見込んでいるほか、ROIC経営の推進による資本効率の向上などにより、売上高1兆4,900億円、営業利益730億円、経常利益660億円、当期純利益は410億円を計画しております。配当金につきましては、当期は1株あたり6円とし、来期は同7円を計画しております。

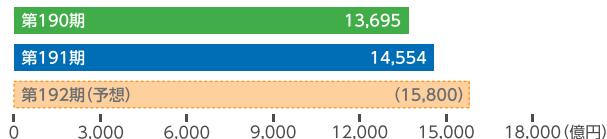
決算ハイライト(連結)

■前期 / ■当期 / ■予想

受注高 | 14,554億円

前年度より858億円増加

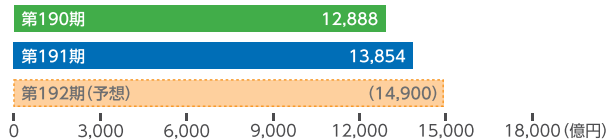
一部のセグメントで減少したものの、モーターサイクル&エンジン事業、精密機械事業、船舶海洋事業などを中心に増加し、全体では増加しました。



売上高 | 13,854億円

前年度より966億円増加

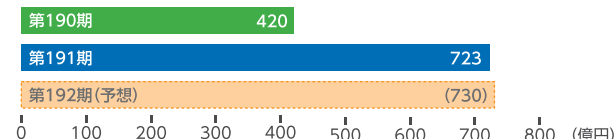
プラント・環境事業、船舶海洋事業などで減収となったものの、モーターサイクル&エンジン事業や航空宇宙事業などが増収となったことにより、全体では増加しました。



営業利益 | 723億円

前年度より302億円増加

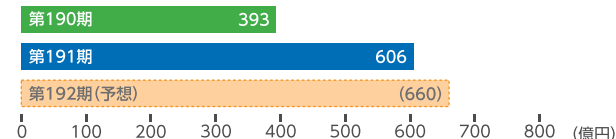
モーターサイクル&エンジン事業、航空宇宙事業、車両事業などが増益となり、大幅な増益となりました。



経常利益 | 606億円

前年度より212億円増加

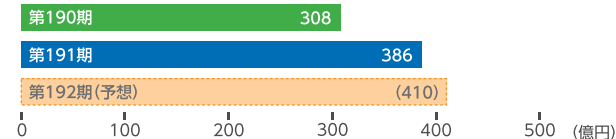
為替差損益の悪化などがあったものの、営業利益の増加により、大幅な増益となりました。



当期純利益 | 386億円

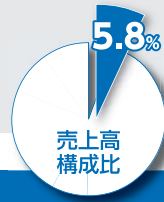
前年度より77億円増加

退職給付信託設定益を特別利益に、また、災害による損失、固定資産の減損損失を特別損失に計上しました。



※1 業績予想などは、合理的と判断するデータに基づいて作成し、2014年4月25日に開示したものであり、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績は予想と異なる可能性があります。

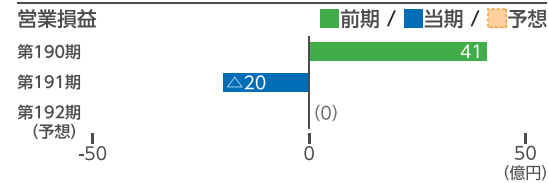
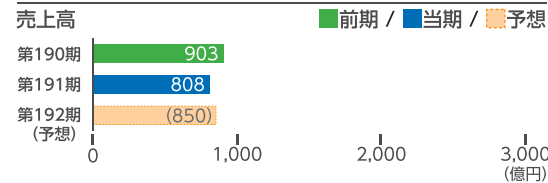
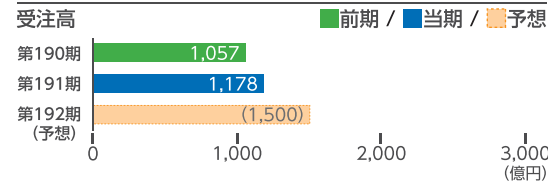
※2 本社部門に係る費用の一部(72億円)を各事業部門に配分していないこと、及び億円未満の数字の切捨てにより、連結営業損益の全社合計(723億円)と「セグメント別の業績」合計(793億円)が一致していません。



船舶海洋事業

ばら積み船の建造量減少等で減収減益

売上高は、液化ガス運搬船の建造量が増加した一方、ばら積み船などの建造量が減少し、808億円と前年度を下回りました。営業損益は、受注工事損失引当金の新規繰入や鋼材価格の上昇などにより、前年度から61億円悪化し20億円の営業損失となりました。



LNG運搬船「グレースタリア」



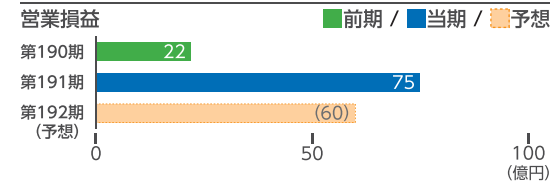
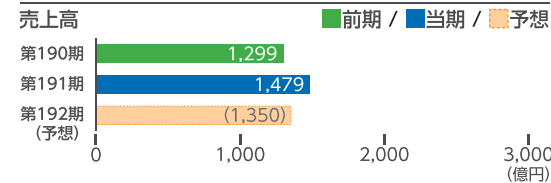
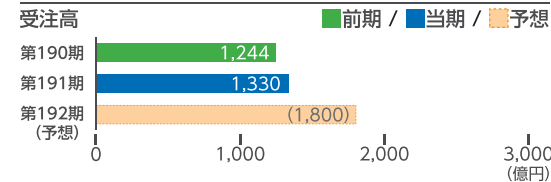
潜水艦「こくりゅう」



車両事業

海外向け売上の増加等で増収増益

売上高は、北米やシンガポールなどの海外向け売上が増加したことなどにより、1,479億円と前年度を上回りました。営業利益は、コスト削減や円安の影響により、前年度から53億円増加し75億円となりました。



東日本旅客鉄道株式会社向け E7系 新幹線電車



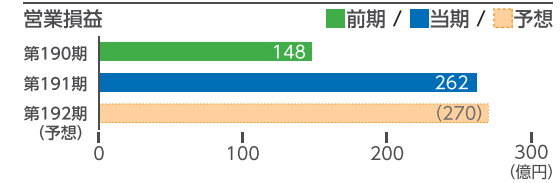
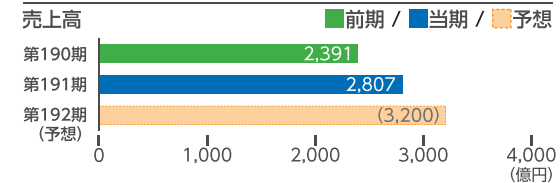
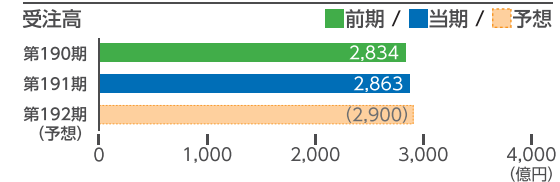
ワシントン首都圏交通局向け 7000系 地下鉄電車



航空宇宙事業

ボーイング社向けの売上増加等で増収増益

売上高は、ボーイング社向け777・787分担製造品や防衛省向けの売上が増加したことなどにより、2,807億円と前年度を上回りました。営業利益は、売上の増加、生産性の向上及び円安の影響などにより、前年度から114億円増加し262億円となりました。



P-1 固定翼戦闘機



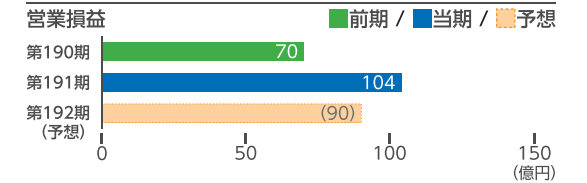
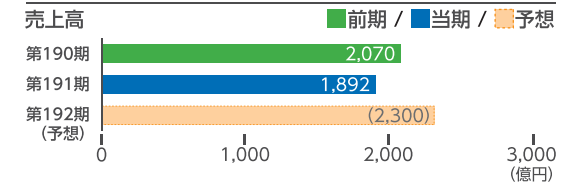
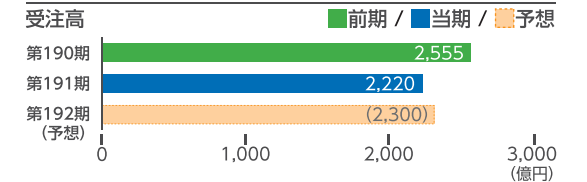
ボーイング787-9ドリームライナー (前部胴体)



ガスタービン・機械事業

経理処理変更で売上減少も、実質的に増収増益

売上高は、1,892億円と前年度を下回りましたが、航空エンジン分担製造品の経理処理変更による減少分374億円を除外すると、実質的には前年度を上回りました。営業利益は、航空エンジン分担製造品の経理処理変更による減少を除外した実質的な売上高が増加したことなどにより、前年度から34億円増加し104億円となりました。



東レ(株)向けPUC80Dガスタービン コージェネレーション設備



日本テクノ(株)袖ヶ浦グリーンパワー向けガスエンジン発電設備

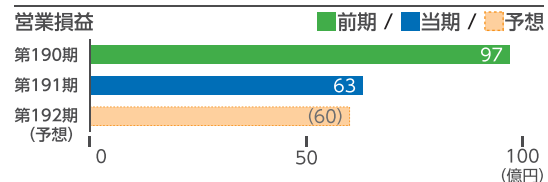
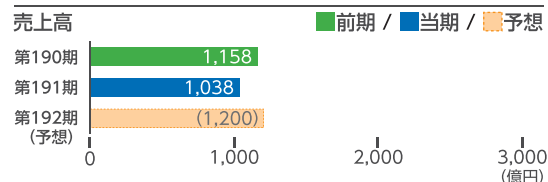
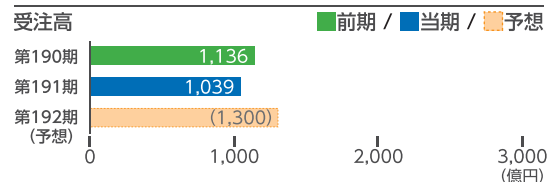
プラント・環境事業

売上高
構成比
7.4%

海外向け大型案件の売上減少等で減収減益

売上高は、環境装置案件が増加したものの、搬送設備や海外向け大型案件が減少したことなどにより、1,038億円と前年度を下回りました。

営業利益は、売上の減少や利益率の低下などにより、前年度から34億円減少し63億円となりました。



トルクメニスタン向けマリ肥料プラント
北海道ガス(株)石狩LNG基地向けLNGタンク

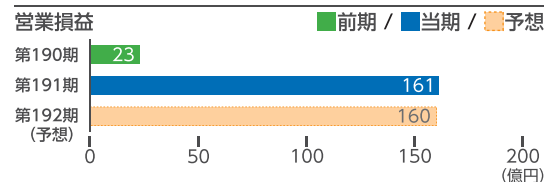
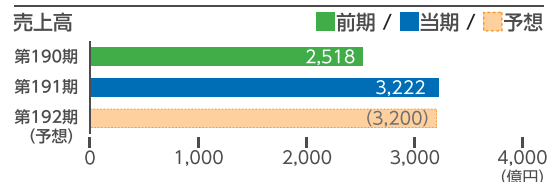
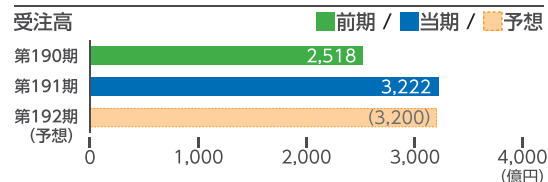
モーターサイクル&エンジン事業

売上高
構成比
23.2%

米国・新興国向けの売上増加等で増収増益

売上高は、米国向け、インドネシアやタイを中心とする新興国向け二輪車の増加などにより、3,222億円と前年度を大幅に上回りました。

営業利益は、売上の増加及び収益性の向上などにより、前年度から137億円増加し161億円となりました。



Ninja 1000

Z1000

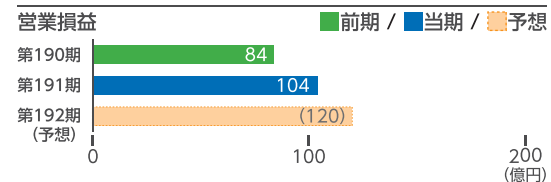
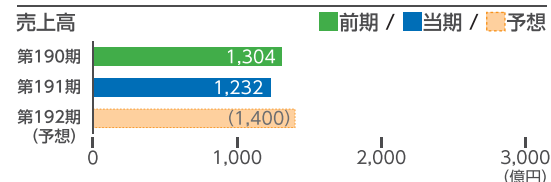
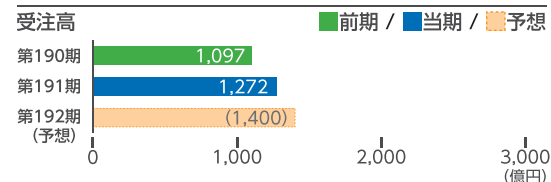
精密機械事業

売上高
構成比
8.8%

ロボット部門の売上増加等で減収増益

売上高は、半導体製造装置向けクリーンロボットや自動車産業向けロボットが増加したものの、油圧機器の減少などにより、1,232億円と前年度を下回りました。

営業利益は、半導体製造装置向けクリーンロボットや自動車産業向けロボットの売上増加、円安の影響などにより、前年度から19億円増加し104億円となりました。



建設機械用新型油圧機器

スポット溶接ロボット「BX200L」

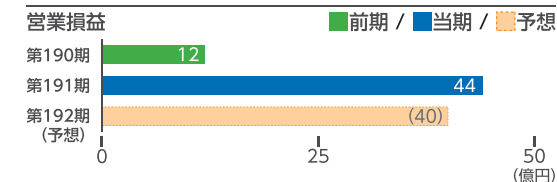
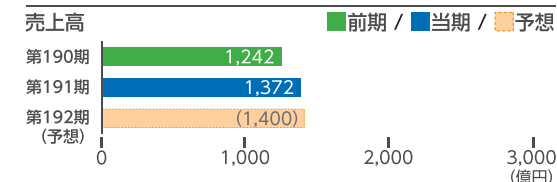
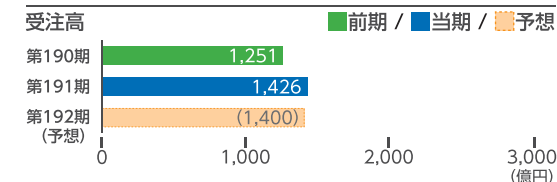
その他事業

売上高
構成比
9.9%

(建設機械の製造・販売、ビル等の管理、商業など)

売上高は、1,372億円と前年度を上回りました。

営業利益は、前年度から32億円増加し44億円となりました。



カワサキホイールローダ「90Z7」

岩岡メガソーラー発電所

Point

Point 1 キャッシュ・フローと有利子負債

本業で得た資金(営業活動によるキャッシュ・フロー)から設備投資などに支出した資金(投資活動によるキャッシュ・フロー)を控除したものを「フリーキャッシュ・フロー」といい、この数値に余裕ができると、借入金の返済や株主への配当などに回す資金が増えることとなります。

今期は、前期から1,272億円改善して741億円となった結果、当社が課題として掲げている有利子負債の削減にも貢献し、目標を上回る水準(目標:4,500億円台に対し、第191期末現在:4,446億円)まで削減することができました。また、借入金の返済が進むと投下資本(純資産+有利子負債)が小さくなるため、ROIC^(※)など資本効率を示す指標が改善します。

※ 詳細はPoint2「投下資本利益率(ROIC)」をご覧ください。

連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	当連結会計年度末 平成26年3月31日現在	前連結会計年度末 平成25年3月31日現在
資産の部		
流動資産	1,005,754	1,016,813
固定資産	548,675	449,476
有形固定資産	383,912	305,792
無形固定資産	17,262	19,446
投資その他の資産	147,500	124,236
資産合計	1,554,430	1,466,290
負債の部		
流動負債	795,415	782,540
固定負債	382,328	333,868
負債合計	1,177,744	1,116,409
純資産の部		
株主資本	376,284	357,379
資本金	104,484	104,484
資本剰余金	54,393	54,393
利益剰余金	217,449	198,528
自己株式	△43	△27
その他の包括利益累計額	△13,243	△19,139
その他有価証券 評価差額金	2,652	4,524
繰延ヘッジ損益	△3,803	△5,998
為替換算調整勘定	6,416	△17,665
退職給付に係る調整累計額	△18,509	-
少数株主持分	13,645	11,641
純資産合計	376,686	349,881
負債純資産合計	1,554,430	1,466,290

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	当連結会計年度 平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで	前連結会計年度 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	151,721	28,101
投資活動によるキャッシュ・フロー	△77,559	△81,160
財務活動によるキャッシュ・フロー	△62,505	57,671
現金及び現金同等物の期末残高	45,431	36,971

連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	当連結会計年度 平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで	前連結会計年度 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
売上高	1,385,482	1,288,881
売上原価	1,140,293	1,085,469
売上総利益	245,189	203,412
販売費及び一般管理費	172,837	161,349
営業利益	72,351	42,062
営業外収益	12,190	17,576
営業外費用	23,936	20,310
経常利益	60,605	39,328
特別利益	3,323	8,624
特別損失	2,618	1,800
税金等調整前当期純利益	61,310	46,152
法人税、住民税及び事業税	15,902	10,590
法人税等調整額	4,409	2,550
少数株主利益	2,396	2,147
当期純利益	38,601	30,864

連結株主資本等変動計算書(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで) (単位:百万円)

科目	株主 資本合計	その他の包括利益 累計額合計	少数 株主持分	純資産 合計
平成25年3月31日残高	357,379	△19,139	11,641	349,881
会計方針の変更による累積的影響額	△11,523	△20,410	-	△31,933
会計方針の変更を反映した当期首残高	345,856	△39,549	11,641	317,947
当連結会計年度中の変動額				
剰余金の配当	△8,358	-	-	△8,358
当期純利益	38,601	-	-	38,601
自己株式の取得	△16	-	-	△16
自己株式の処分	0	-	-	0
連結子会社の会計期間変更に伴う増減額	201	-	-	201
株主資本以外の項目の当連結 会計年度中の変動額(純額)	-	26,306	2,004	28,310
当連結会計年度中の変動額合計	30,428	26,306	2,004	58,738
平成26年3月31日残高	376,284	△13,243	13,645	376,686

連結包括利益計算書 (単位:百万円)

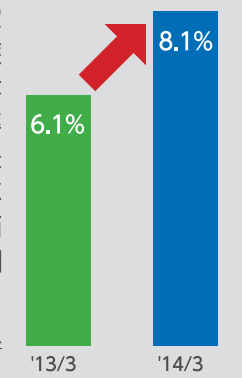
科目	当連結会計年度 平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで	前連結会計年度 平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで
少数株主損益調整前当期純利益	40,998	33,011
その他の包括利益	27,706	11,027
その他有価証券評価差額金	△1,852	541
繰延ヘッジ損益	2,314	△6,381
為替換算調整勘定	11,996	11,712
退職給付に係る調整額	1,870	-
持分法適用会社に対する 持分相当額	13,377	5,155
包括利益	68,705	44,039
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	64,908	40,940
少数株主に係る包括利益	3,797	3,099

Point

Point 2 投下資本利益率(ROIC)

目標とする経営指標は、投資家の皆様の期待に応える利益を獲得することを目的として、資本効率を測る投下資本利益率(ROIC)を採用しています。今後も、ビジネスユニットごとにROICの管理を徹底するなど、企業価値の向上にむけた「ROIC経営」を推進していきます。

※ROIC = $\frac{\text{税引前当期純利益} + \text{支払利息}}{\text{投下資本}}$



会社概要・役員 株式の状況・大株主

会社概要 (平成26年3月31日現在)

創立	1896(明治29)年10月15日
資本金	104,484,658,872円
従業員	(単体)15,196名 (連結)34,623名
本社	(神戸)神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号 (東京)東京都港区海岸1丁目14番5号

役員 (平成26年6月26日現在)

取締役社長	村山 滋	常務執行役員	衣斐 正宏
取締役副社長	松岡 京平	執行役員	田中 信介
	高田 廣		河野 行伸
常務取締役	井城 讓治		中川 雅文
	井上 英二		河部 香
	金花 芳則		小河原 誠
	牧村 実		小牧 博一
	村上 彰男		中林 志郎
	石川 主典		久山 利之
	肥田 一雄		阿部 元一
	紀山 滋彦		太田 和男
	富田 健司		前田 正美
取締役	森田 嘉彦		岩崎 宏治
監査役	村上 雄二		門田 浩次
	芝原 貴文		橋本 康彦
	岡 道生		渡辺 達也
	藤掛 伸之		大畑 健
			成松 郁廣
			浅野 剛
			三村 利行
			猫島 明夫

株式の状況 (平成26年3月31日現在)

発行可能株式総数	3,360,000,000株
発行済株式総数	1,671,892,659株
株主総数	128,248名

大株主 (平成26年3月31日現在)

株主名	所有株式数	比率
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	108,666,000株	6.49%
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	79,989,000株	4.78%
株式会社みずほ銀行	59,207,773株	3.54%
日本生命保険相互会社	57,516,659株	3.44%
JFEスチール株式会社	56,174,400株	3.35%
川崎重工共栄会	34,871,192株	2.08%
川崎重工業従業員持株会	30,975,217株	1.85%
東京海上日動火災保険株式会社	27,838,589株	1.66%
株式会社三井住友銀行	26,828,453株	1.60%
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口9)	21,465,000株	1.28%

■株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人及び 特別口座の管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒540-8639 大阪市中央区北浜4丁目5番33号 TEL:0120-782-031(フリーダイヤル) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

■ご案内

○単元未満株式をご所有の株主様へ

当社は、2013年8月に単元未満株式の買取・買増制度のご利用時にかかる手数料を廃止いたしました。単元未満株式(1,000株未満)は、市場での売却ができないだけでなく、株主総会での議決権行使ができないなど、一部の権利が制限されております。

単元未満株式をご所有で、株式の売却、単元株式(1,000株)への買い増しなどをご検討されている株主様は、これを機会にぜひご利用ください。

例1) 800株をご所有の株主様

買取請求により800株を売却いただくか、200株を買い増していただくことで(買増請求)1,000株にまとめることができます。

例2) 1,800株をご所有の株主様

買取請求により800株のみ売却して残り1,000株は引き続き保有いただくか、200株を買い増していただくことで(買増請求)、所有株式数を2,000株にまとめることができます。

詳細なお手続につきましては、お取引のある証券会社又は三井住友信託銀行(下記)までお問い合わせください。

○事務のお取扱い(電話お問い合わせ・郵便物送付先)
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
TEL:0120-782-031(土・日・祝日を除く 午前9時~午後5時)

ホームページのご案内

当社ホームページでは、投資家の皆様向けに、さらに詳しい財務関連情報や環境への取り組みなど幅広い情報を掲載しております。また、個人投資家の皆様へ向けたページもご用意しておりますので、ぜひご覧ください。

<http://www.khi.co.jp>



今回の表紙

今回の表紙は、05-06ページでご紹介した医薬・医療向けロボット「MS005N」の写真を掲載しました。同ロボットは業界初のオールステンレス構造に加え、滑らかな鏡面仕上げ処理による優れた耐腐食性を誇るほか、7つの関節を持つ自由度の高い構造になっているため、調剤室などの狭い空間においても薬品の充填、搬送、整列から、容器洗浄など調剤に必要な工程の自動化を可能としています。



切り取ってご利用ください

川崎重工業株式会社

ご来場の際は本券を切り離してご持参ください。

ご利用日	年	月	日	
ご利用内訳	大人	名	小人	名